

国際交流学科 3年

留学先：韓国・新羅大学

留学期間：2023年3月～2023年12月

意欲的に取り組んだことは3つあります。

1つ目は学科の勉強です。韓国人の友人と遊ぶことも自分の韓国語能力を向上し、語学堂のテスト勉強にもなるため、良い勉強方法でした。しかし、学科の勉強は、「〇〇教育論」の様に韓国人の学生と同様に授業を受け、テストを受ける必要があったので、机に向かってひたすらに覚えるといった勉強方法が必要になりました。私は、新羅大学で日本語日本学科に配属されたので、日本語日本学科の仲の良い先輩と学科の部屋と一緒に勉強をしました。勉強を進めながら、分からないことがあった際には、ネイバーで調べてみましたが、答えが出てこない事もよくありました。その際は、先輩にどういう意味なのか聞き、教えて貰ったので、効率的に勉強を進める事が出来ました。先輩は、日本語を勉強しているので、分からないことがあった場合は私が読み方、話し言葉・書き言葉、女性・男性が使う言葉等の細かいニュアンスについて説明をしました。お互いに勉強を手伝い、刺激を与えながら勉強を進めることが出来ました。加えて、今まで直感で使っていた日本語に対する理解が更に深まったと感じます。

2つ目は韓国語の勉強です。韓国語が飛び交っている環境は、留学時にしか味わえないと思い、外に出る事を心掛けました。カフェ、ご飯、ショッピング等の全ての過程において、韓国語は必要不可欠になるので、実践を通して韓国語を上達させようと考えました。留学前から **topik6** 級を持っていましたが、韓国人と比べると自分の韓国語はまだまだ足りていない部分が多く、「ネイティブスピーカーになる」を目標に韓国語学習を行いました。そのため、連音化・n挿入・発音の変化が起きる際には、どの様に発音するかを理解し、自分が実際に発音できるようになるまでその場で練習しました。また、「外国人だから失敗しても大丈夫」という言葉が自分に対して甘えに感じたので、外国人だとしても失礼な言葉の表現を使わないようにと、目上の方と会話する際、丁寧語はもちろん尊敬語と謙譲語を積極的に使うように意識しました。まだ完璧ではありませんが、留学を通して尊敬語と謙譲語に関する理解が更に深まったと感じます。

3つ目は、文化の違いを体感し、自分から発見していくという点です。例として、韓国ではバスの乗り降りの際に、乗る時は停留所にバスが来る前に立ってすぐに乗れる準備をし、降りる時は先に立って出口の前に立っておくといった文化です。日本では、安全のために乗客の全てが座ってから出発し、停車してから立ちあがる様に運転手さんが促しますが、韓国とは正反対です。どちらが、良い悪いという事は無く、それぞれの国民性に合わせて出来たシステムだと考えます。ここから、それぞれの国民性に関する違いも見えてきます。この様に、文化の違いを理解することによって、仮に「せかせかしてていつもイライラしてる韓国人」「とろい日本人」と悪い印象があったとしても、お互いに理解をし、歩み寄るきっかけになると感じました。留学で得た違いの理解をこれからの生活に繋げていきたいです。

